

## 待望の 新太田橋 開通祝う



山田の桐谷川に架かる市道の新太田橋の開通式典が行われ、地元山田・津保川台・虹ヶ丘地区住民約800人が渡り初めをし、新しい橋の完成を祝いました。以前の橋は幅が狭くカーブがきつかったため、かねてより地元から改良要望があり、川の改修

工事に合わせ架け替えを実施しました。式典で、尾関市長や金竜小学校児童らがテープカットして供用を開始しました。待望の橋の開通で、通学・通勤など生活幹線道として安全に利用できる橋となり、地域のさらなる発展が期待されます。

## あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター  
「関\*はもみん」



### 心をひとつに

音楽を通じて豊かな心を養おうと、関市文化会館で小中学校連合音楽会が開催されました。今年で49回目の伝統行事で、市内すべての児童生徒が学校ごとに合唱や合奏などの練習成果を発表しました。どの学校も曲に合わせて工夫し、心ひとつに取り組んだ成果が表れていました。みんなが一緒になった歌声は、大きな感動を呼び、一生の思い出を作りました。

### 外来魚駆除で水を美しく

市最大のため池「中池」で池干しが行われ、地元住民や環境保護団体ら約100人が魚の捕獲作業に取り組みました。中池の水は、付近の農家が稲作などで利用。水質を浄化したいとの思いで毎年実施しています。参加者は、水抜きした池に腰まで入りタモで魚をすくい取りました。特定外来生物のブラックバスなどが大量に見つかり、捕獲した魚を仕分け。在来生物も多く確認され、水質的にも池干しの効果が表れていました。





## 元気を披露しました

第19回となる「SEKI いきいきフェスタ」が、わかさプラザで開かれ、市内の生涯学習グループや文化団体のメンバーが日ごろの練習の成果を披露しました。大正琴の優雅な音色や軽快なダンスなどでステージを盛り上げたほか、水彩画や木目込み人形などの丹精込めた力作が展示されました。体験コーナーをはじめ、各団体の活動内容を広くPRすることで、市民の交流が深まっていきました。

## 命に関わる真剣な訓練

博愛小学校で、東海地震注意情報が発表された場合などの緊急時に、学校がどのような対応をするのか、保護者や児童はどんな行動をとればよいのかを実際に体験する「児童引き渡し訓練」が行われました。連絡を受けた保護者が学校の運動場まで車で入り、児童とともに帰宅したら、帰宅メールを学校へ返す行動を確認。不測の事態に対応できるよう訓練に取り組みました。



## スパッと切れ味抜群

“刃物のまち関市”ならではの講座「刃物セミナー」が開催され、参加者が実技コースで包丁研ぎの手ほどきを受けました。講師から包丁の構造や材質の説明を受けた後、各自持参した包丁を角度や力の入れ方などに気をつけながら研ぐと、どの包丁も切れ味のよくなり生まれ変わりました。参加者は正しい研ぎ方を習得し、よみがえった包丁に感動していました。

## 創立10周年を記念して

総合型地域スポーツクラブを目指すスポーツ団体の「せきスポーツクラブ」が創立10周年を迎え、記念式典が開かれました。シニアメンバーによるジャズやフラダンス、フォークダンスなどのアトラクションが披露され、参加した会員約100人が楽しいひと時を過ごしました。同クラブは、さまざまな世代がテニスやバレー、野球、水泳、バドミントンなど、年間を通して毎週スポーツ活動を行っています。



## いぼね話



11月27日に関市文化会館で開催された「公共交通フェスティバル」では、家族連れを中心に、およそ5,000人が来場されました。この辺りは、条件的に自動車交通が中心で、どうしても便利に使えるマイカーに頼ってしまいます。この日は、身近にある公共交通の役割をあらためて考え、「来て、見て、乗って」、楽しみながら、今後の生活の中での活用を再発見してもらおうというイベントでした。

電車やバスなどは、一度にたくさんの人を運べる効

率の良さ(=省エネ)はさることながら、大型であるがゆえの「機械」としての魅力を感じます。レトロなボンネットバス、関商工高や岐阜工業高の生徒の皆さんが製作したミニSLの乗車体験は常に長い列ができるほどの人気で、乗り物に乗って楽しそうに手を振る子どもたちの笑顔がとても印象に残りました。

私の子どもたち(小学生)も年に何回、鉄道を利用するかなあという感じですが、普段の生活の中で身近な鉄道やバスなどで出かけるのも、ちょっとした旅行気分でも楽しいかもしれませんね。